

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成25年12月19日(2013.12.19)

【公開番号】特開2012-103134(P2012-103134A)

【公開日】平成24年5月31日(2012.5.31)

【年通号数】公開・登録公報2012-021

【出願番号】特願2010-252360(P2010-252360)

【国際特許分類】

G 0 1 C	11/06	(2006.01)
G 0 1 B	11/24	(2006.01)
G 0 6 T	15/00	(2011.01)
G 0 6 T	19/00	(2011.01)
G 0 6 T	1/00	(2006.01)
G 0 6 F	17/50	(2006.01)
G 0 1 C	15/06	(2006.01)

【F I】

G 0 1 C	11/06	
G 0 1 B	11/24	K
G 0 6 T	15/00	1 0 0 A
G 0 6 T	17/40	A
G 0 6 T	1/00	3 1 5
G 0 6 F	17/50	6 2 2 A
G 0 6 F	17/50	6 2 4 A
G 0 6 F	17/50	6 8 0 B
G 0 1 C	15/06	T

【手続補正書】

【提出日】平成25年11月6日(2013.11.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 4】

さらに、標識グループ化部71の第1のグループ化部712Aで、面の法線に対する位置検出マークの位置座標の関係に基づいて、例えば、原点から平面までの距離(式7参照)に対応して、測定対象面に対応する(第1のグループ化工程:S120A)。すなわち、同一平面に貼付されたカラーコードターゲットCTが同一グループに属するようにグループ化する。

測定対象面内の各点(x_1, y_1, z_1)について、

点P1(x_1, y_1, z_1)と原点との距離 = $(x_1^2 + y_1^2 + z_1^2)$ (式5)

)

点P1(x_1, y_1, z_1)のある点P(p, q, r)までの距離

= $((x_1 - p)^2 + (y_1 - q)^2 + (z_1 - r)^2)$ (式6)

原点から平面($ax + by + cz + d = 0$)へ下ろした垂線の長さ

= $|d| / (a^2 + b^2 + c^2)$ (式7)

ある点P(p, q, r)から平面($ax + by + cz + d = 0$)へ下ろした垂線の長さ

= $|ap + bq + cr - d| / (a^2 + b^2 + c^2)$ (式8)

となる。これらを計算し、一つの平面へ下ろした垂線の長さが略等しいカラーコードターゲットCTは、同一平面内にあるので、同一グループになるようにグループ分けする。ここで、 $f(x)$ は $\underline{(f(x))^{1/2}}$ を表す。